

# 粉河高等学校定時制

実施日時	令和3年11月17日（水）
参加者	生徒7名、教職員7名、地域住民等0名 計14名
実施内容	講義（災害時の避難方法等）、救命救急講習、地震体験車による地震体験

## ねらい

近い将来予想される南海・東南海大地震をはじめ自然災害に備えて、那賀消防組合や地域等と協力・連携しながら、生徒に防災・減災に関する専門的な知識や技術を習得させ、防災への意識を高め、地域防災の担い手・リーダーとして社会貢献できる青少年の育成を図る。

## 主なプログラム

- 1 講義（災害時の避難方法等）
- 2 救命救急講習（心肺蘇生法・AED）
- 3 地震体験車による地震体験

## 概要

- 1 講義（災害時の避難方法等）

那賀消防組合東消防署の署員3名を講師に、講義（災害への備え）と救命救急講義（心肺蘇生法・AED）に取り組んだ。質疑応答を交えながら、地震に備えて日頃から準備しておくことの大切さ等を学習した。



- 2 救命救急講習（心肺蘇生法・AED）

心肺蘇生法・AEDについて、講師先生から説明を受けた

- 3 地震体験車による地震体験

消防署の署員の指導の下で、参加生徒及び教職員が地震体験車による地震体験を行った。

## 参加者感想文



- いざ実際その場に遭遇したときに適切な行動をできるか不安です。AEDを使ったことがないので、インターネットなどで調べて使い方を把握したいです。
- 災害前の対策だけでなく、災害後の二次災害への対策、行動も大事だと思った。救命は救命士やお医者さんがするまでの一般市民の救命が大事。するのとならないのではその命が助かる確率がぐっと変わる。
- 地震に対して、市民が安全に暮らすための自助・公助・共助という言葉覚えておき、実際に起こったとき参考にしていきたいと思った。
- 建物の倒壊などの下敷きになってしまった人た

ちを救ったのは、市民の人々の方が多いと知って驚いたし、自分もそういったときにできる範囲で助けられたらと感じた。

## 成果と課題

### 【成果】

那賀消防組合東消防署の方の指導により、全学年対象で参加生徒7名が、災害への備えと心肺蘇生法・AEDの使用方法を学習できた。指導も生徒に寄り添った語りかけで、生徒にとって大変有意義な時間となった。

また、初めての取組である「地震体験車による地震体験」では、想像以上の揺れに生徒も教職員も驚き、貴重な体験ができた。



### 【課題】

在籍生徒全員の参加でなかったため、全員参加できるよう、いかに指導するかということと保護者や地域住民の方の参加を促せるよう工夫することが課題である。